愈京都府立海洋高等学校



3年海洋科学科 6月期キャリアトライアル 「ことばの力」トライアル

<粟谷 祐輝>

2週間にも及ぶ長期間の実習で、特に興味を持ったのは、トリガイ育成に関する実習やトリガイの稚貝育成施設の見学でした。トリガイはとても生命力が低く、飼育が難しい二枚貝ですが、地域と一体化して養殖業をしています。またブランド化されており「丹後とり貝」として高値で販売されています。漁業士交流会ではトリガイの出荷作業を経験させていただいたり、漁業士の方からブランド化への苦労と努力についても聞くことができました。今でこそ成功しているトリガイ育成ですが、生残率の悪さや高価過ぎて地元の人が食べられないという課題が残っています。私は大学で水産物の流通について学び、流通の立場から水産業の発展を手助けしたいと思います。

この2週間で思ったことは、2点です。実習や授業で学ぶことを生かして水産業を発展させようということと、水産の学校を選んで良かったということです。

<山本達之介>

私の将来の夢は子供たちに生き物の大切さや、楽しさを教える仕事に就くことです。そのため、今回訪問したすべての施設で、子供たちへの普及活動はされているか、教える際の注意点は何かを聞きました。京都水族館の「触れ合いコーナー」では、水生生物を毎日入れ替えていること、子供達には大水槽よりも小さな水槽の方が人気が高いそうです。三重大学では、生き物について正しい知識を身に付けること、そして実際に触れて五感で感じさせる工夫が必要だと教えていただきま



した。醒井養鱒場では、魚の解剖を嫌がる子供は、実際に嫌がっているのではなく、実は楽しんでいるという心理があるそうです。また、安全に体験が終わらなければ、その体験は失敗であるということも知りました。

この2週間で、多くの施設に訪問し、今後、自分が何を学べば良いかということが見えてきました。希望進路の第1歩である大学進学につなげられるように頑張りたいと思います。



<清藤 薫>

今回のキャリアトライアルウィークで印象に残ったことが主に2つあります。

1つめは、校外見学で行った増養殖研究所での講義です。「研究の99.9%が地味な作業の研究で、残りの0.1%がメディアに取り上げられるような大きな成果のでる研究である」という内容で、これは研究だけにいえる話ではなくて、例えば部活動では毎日頑張って練習した成果が試合で出せる、勉強では毎日こつこつ学習することで成績に表れたり、自分の進路を勝ち取るなど、普段の生活でもいえることだと思いました。今日からでも、何事に対しても自分の良い結果が出るように、こつこつと努力できる人になろうと思いました。

2つめは漁業士交流会です。筏の上でトリガイのコンテナを掃除するには、何人かで協力しなければなりません。自分に与えられた仕事をまっとうすることで、作業がスムーズに進みます。しかし、私はよく人の仕事を気にしたり、必要以上に手伝ってしまいます。もし、これが社会だったら、仕事は前に進みません。私には、仲間をもっと信頼・信用する力が必要だと感じました。この力は私の将来の夢である海上保安官には最も必要な力だと思います。海上保安官は、人の命がかかっている仕事です。仲間を信じなかったら、自分も仲間も危険にさらしてしまう可能性があります。私はこの実習で自分の直さなければいけないことや、つけていかなければいけない力について考えさせられました。

2週間の実習で、知識や技術を身に付けるだけでなく、自分の将来の夢について考える、良い期間になりました。自分に足りないものがわかったので、今後はその力をつけることにつながる行動をしたいと思いました。